

資料

スポーツ栄養講演会の参加者を対象にしたニーズに関する研究

川俣 幸一^{*1}、宮下 恵理^{*2}、山澤 菜美^{*3}、五十嵐 あきほ^{*4}

^{*1}飯田女子短期大学 食物栄養専攻、^{*2}喬木村学校共同調理場、

^{*3}社会福祉法人麦の家、^{*4}特別養護老人ホームたきべ野

【連絡責任者】川俣 幸一 〒395-0812 長野県飯田市松尾代田 610

TEL : 0265-22-4460 FAX : 0265-22-4474 E-mail : kawamata@iidawjc.ac.jp

抄録

スポーツ栄養において、講演会に対する講演会参加者のニーズに関する研究は国内に見当たらない。本研究の目的はより良い講演会を実施するために参加者の抱くニーズを明らかにすることとした。長野県南部地域で開催されたスポーツ栄養講演会の参加者 198人を対象とした。講演会終了後に、ニーズに関する自記式アンケートについて参加者に回答をもらった。結果として参加者の64%が講義形式の講演会を希望していた。高校生や短期大学生(栄養士系短期大学生)においては自分達と同世代を対象にした栄養知識の講義を求める傾向があった。現職の栄養士は中学生の講演に関心が高かった。また 10-20 代では講義形式の他に調理実習に対するニーズがある事も示唆された。

キーワード スポーツ栄養、講演会、ニーズ

緒言

近年スポーツ基本法が制定され、地域スポーツや競技スポーツの振興が期待されている。一方で競技者が最高のパフォーマンスを発揮するには食事の影響も少なからず関係し、競技ないし健康の分野においてスポーツ栄養学を学んだ専門家が求められるようになった¹⁻⁵⁾。

その様な中、一部の栄養士には栄養に関係した講演会を依頼される者もあり、多くの人々を対象に栄養教育を行える貴重な機会が講演会であると言える。講演会と一口に言っても、対象者や講義内容、方法は様々であるが、共通するのは講演会に参加する多くの人々が、そのテーマや講師に対して少なからず興味を持っている点である。ところが多くの場合、依頼側の事情に大きく依存するものの、基本的に講義内容や講義形態は講演者に一任されているのが現状である。しかしながら、その栄養管理を行った経験のある、もしくは講演会などを依頼される立場にある管理栄養士・栄養

士(以下、栄養士)は非常に少ない。

一方で、参加者側が事前に講演内容を知ることができるのは講演タイトルと講師名、数行程度の概要などであり、また講演者側が事前に知り得るのは参加者の人数とおおまかな属性のみとなる。その認識の違いは、時には講演会が両者にとって期待にそぐわない内容となる事態を引き起こす事になる。この原因の一つに国内に栄養の講演会に参加者が求めるニーズについてまとめられた資料(先行研究)が見当たらない事があげられる。

今後はスポーツ基本法の制定、東京オリンピックへの関心により、競技レベルまたは市民レベルの観点からスポーツと栄養については関心が高まると想定され、国内で開催されるスポーツ栄養講演会の数・種類も増えると考えられる。上述した理由より、したがって、(種々の領域ごとに)講演会に参加した集団を対象に属性ごとのニーズをまとめた一資料があれば、初めて講演を依頼された栄養士であってもある程度の参加者の潜在的なニ